

活動名 七尾市バスツアー

団体名 地域連携センター

はじめに

本活動は、本学が2018年3月28日に七尾市と締結した包括連携協定に基づいて行ったものである。

この連携協定については、七尾市ホームページで、「市と金沢星稜大学が、地域活性化や文化振興、子育て支援など幅広い分野で連携し協力を図る協定を結びました。学生が地域にフィールドワークで訪れ、課題解決の糸口を市や住民と共に考えて活力ある地域づくりにつなげるのが狙いです。宮崎正史学長は「これまで七尾市で取り組んできた地域との連携活動をさらに高めていきたい」と述べ、不嶋市長は「学生の若さあふれる行動力や柔軟な発想力、豊かな感性に期待したい」と力を込めました。」

(<http://www.city.nanao.lg.jp/koho/shise/koho/machinokao/h30/03/300328.html>)、更新日：2018年3月31日)と報じられている。

そして、各教職員に対しては、以下のようなメールで本バスツアーへの参加を呼びかけた。

各位

地域連携センター

本学は、2018年(平成30年)3月に七尾市と包括連携協定を締結しました。

今年度事業として、いくつかの事業を進めているところですが、今後、七尾市との連携事業をさらに展開していく上で、七尾市の産業、文化などをもっと知っていただき、魅力ある事業を皆様と実施していきたいと考えております。

そこで、今回、七尾市を見聞し、知っていただく標記ツアーを実施したいと考えております。

七尾市との連携事業に興味がある方、連携先を検討されている方、七尾市職員の方にお話しを伺いたい方はぜひご参加ください。

すなわち、本バスツアーは包括連携協定に基づく地域貢献活動として、教職員の七尾市に対する興味・関心を高め、今後の学生指導を含めた調査研究活動などのフィールドとして七尾市をより活用してもらうための契機とすることを目的として実施したものである。

活動内容

活動は、七尾市の協力をいただき、11月27日(火)に行った。上記の呼びかけに応じて、(表1)の教職員が参加した。

ツアー当日の視察内容は以下の通りだった。

●のと里山里海ミュージアム

(企画財政課職員およびのと里山ミュージアム館長による七尾市に関する基本情報などの説明、ミュージアム視察)

- ・明治の館、祭り会館
(スポーツ・文化課職員による解説)
- ・一本杉通りを散策して鳥居醤油店などを訪問し、能登食祭市場へ

(表1) 七尾市バスツアー参加者(敬称略・順不同)

所属	氏名	備考
経済学部	新 広昭	経済学部長
経済学部	曾我 千春	地域連携センター長
経済学部	張 森	
経済学部	本康 宏史	総合研究所 所長、 元地域連携センター長
経済学部	山本 英司	
教養教育部	小磯 千尋	
人文学部	捧 富雄	地域連携センター委員
人文学部	山田 孝子	
事務局	谷内 仁美	地域連携センター

訪問した場所について七尾市のホームページなどによって紹介する。

●のと里山里海ミュージアム

能登国が養老2年(718年)に立国して1300年を迎える2018年の10月28日にオープンした、のと里山里海の価値を知って発信する交流拠点の役割を担う施設である。館内には以下のコーナーなどがある。

「里山コーナー」(里山に生息する多種多様な植物や昆虫などの標本を展示し、森や潟の自然と歴史的環境を紹介)。

「里海コーナー」(伝統的な伝馬船と漁具の実物が展示され、能登のブリ漁、貝の養殖などについて紹介)。「七尾の大地コーナー」(七尾の名がつくナナオニシキなどの貝の化石類をはじめ、国内でも珍しいデスモスチルスとパレオパラドキシアや巨大サメの歯の化石などを展示)。「七尾の祭コーナー」(青柏祭や奉燈祭に代表される、七尾の特色ある祭を紹介。獅子頭を持って記念撮影ができるコーナーもある)。「歴史コーナー」(古くから能登の中心地だった七尾の歴史を、海運交易を中心に紹介。また、3Dレーザー測量で更に詳しくなった七尾城跡のジオラマ模型とARで七尾城の歴史などを体感できる)。「里山里海に暮らす」(社会生活と自然との折り合いなど里山里海に暮らしの中での課題を提起)。「山里海シアター」(2画面の体感シアターで七尾の祭りや里山里海の魅力を映像で体験できる)。「エントランスホール」(入ってすぐの床に、能登全域の見どころが一目でわかる絵地図)のりと空中散歩がある。ミュージアムへの通路には百景棚があり、能登半島の市町の紹介と特産品を展示)。



(エントランスホールの絵地図)

●明治の館 (室木家住宅)

室木家は天領で庄屋を務め、酒造業、廻船業も営んだ豪農。その旧宅である明治の館は、豪壮な合掌組入母屋造り(いりもやづくり)の茅葺屋根(かやぶきやね)の主屋と、庭園、そして民俗資料展示室となっている旧米蔵が公開されている。建物の目を見張る柱や梁(はり)の太さや、歳月を感じさせない美しい塗りなど用材の立派さと名工の技に和風建築の粋が凝縮されており、七尾市指定有形文化財となっている。



(室木家住宅内部)

●祭り会館 (中島お祭り資料館・お祭り伝承館)

中島地区に伝わる祭りをテーマにした展示館。祭りの数々を収めたビデオ上映や国指定重要無形民俗文化財である熊甲二十日祭の杵旗行事を再現した広場などがある「お祭り資料館」と、祭具の展示や研修室からなる「お祭り伝承館」がある。この2館で中島地区の祭りをバーチャルに体験できる。

なお、「熊甲二十日祭」は久麻加夫都阿良加志比古神社(熊甲神社)の大祭で、毎年9月20日に行われることから「二十日祭り」とも呼ばれている。19の末社から繰り出した神輿は、猿田彦の先導で、高さ約20メートルの深紅の大杵旗を従えて本社に参入する。また、お旅所の加茂原では、早回りや杵旗を地上すれすれまで傾ける「島田くずし」が披露される。



(「お祭り資料館」)

●一本杉通り

一本杉通りは、600年以上の歴史を持つ街道で、七尾駅前を流れる御祓(みそぎ)川にかかる紅い欄干の仙対橋から木越山光徳寺までの450mのまっすぐの通り。50店舗あまりの店がたちならび、建物は元来寄棟造りの長屋で、いくつかは登録文化財に指定され、当時の面影を残している。



(鳥居醤油店の醤油絞り装置)

成果、結果の考察

本活動は、今後のゼミ活動や教員の調査研究活動のフィールドとして七尾市が取り上げられるようになるためのきっかけづくりであり、成果がすぐに現れるとは限らない。しかし、帰路のバス車中の参加者の話し合いでは、今後、もっといろいろな活動が行われることが予測され、意義がある活動だったといえる。

今後の課題、展望

今回のバスツアーは、募集の呼びかけから実施までの期間が短かったこともあり、参加者が10名程度にとどまった。また、人間科学部からの参加者は残念ながらいなかった。しかし、七尾市には、今回行くことが出来なかった能登島や和倉温泉、七尾城址、スポーツ施設など多様な資源・施設が多くあり、七尾市において、本学に関係する多彩で多様なプロジェクトがもっと開催される可能性があると考えられる。そのためには、こうしたバスツアーは一回限りではなく、繰り返し行っていく必要があるといえよう。(文責：捧 富雄)